

Coop Calendar

2025
NOV
11月号

Vol.
192



CONTENTS

| | | |
|-----------------------------|----------------------|----------------------------|
| 役員エッセイ 1 | 会員生協だより 5 | NPO法人 介護・福祉サービス |
| 宮城県生協連理事 藤巻 正之 | ・みやぎ生活協同組合 | 非営利団体ネットワークみやぎの活動 13 |
| 宮城県生協連の活動 2 | ・生活協同組合あいコープみやぎ | 適格消費者団体 認定NPO法人 |
| ・宮城県生協連第56回総会（2025年度） | ・みやぎ仙南農業協同組合 | 消費者市民ネットとうほくの活動 14 |
| 第2回理事会報告 | ・松島医療生活協同組合 | 宮城県ユニセフ協会の活動 15 |
| ・冬の生協配達灯油暫定価格決定 | ・みやぎ県南医療生活協同組合 | 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ |
| ・「消費者のくらしと権利を守る第46回宮城県生協 | ・東北大学生生活協同組合 | ネットワーク（MELON）の活動 16 |
| 組合員集会」～ここから始まる平和な未来～ | ・全国大学生活協同組合連合会東北ブロック | 行事予定 17 |
| ・東北6県の生協連の代表者が東北経済産業局に | 協同のとりくみ 10 | 新聞記事 19 |
| 灯油に関する要請行動を実施 | 平和のとりくみ 11 | 資料 26 |
| ・家庭用エネルギー学習会「鶴岡灯油裁判から今を考える」 | 消費者行政の充実強化をすすめる懇談会 | |
| | みやぎの活動 12 | |



AIと生活者：日常に寄り添う技術

宮城県生協連理事（大学生協事業連合常務理事）

藤巻 正之

人工知能（AI）は、私たちの暮らしの中に静かに浸透し、さまざまな場面で生活者を支える存在となっています。かつては専門的な分野で使われる技術という印象が強かったAIですが、今では交通、医療、行政サービス、家庭内の設備など、日常の多くの領域で活用されています。

たとえば、公共交通ではAIが運行状況や混雑度を予測し、利用者に最適な移動手段を提案するサービスが登場しています。医療の現場では、画像診断や問診支援にAIが導入され、早期発見や診断の精度向上に貢献しています。行政では、問い合わせ対応や書類の自動分類などにAIが活用され、窓口業務の効率化が進んでいます。

スマートフォンにもAIは欠かせない存在となっています。音声アシスタントは、予定の確認や調べものを手助けし、翻訳機能は言葉の壁を越える支援をしてくれます。写真の自動補正や、好みに合わせたニュースや動画の推薦なども、AIが裏で働いています。これらの機能は、忙しい日々の中で情報を整理し、判断を助けてくれる心強い存在だと思います。さらに、地図アプリでは交通状況をリアルタイムで分析し、最適なルートを案内するなど、移動の質も向上しています。

家庭では、防犯システムやエネルギー管理にもAIが組み込まれ、安心で効率的な暮らしを支えています。異常を検知して通知するセ

ンサーヤ、電力使用量を学習して節電を促す仕組みなどがその一例です。これらは、生活者の負担を減らし、より安全で快適な環境づくりに貢献していると思います。

もちろん、AIの活用には課題もあります。プライバシーの保護、情報の偏り、技術への過度な依存など、慎重に向き合うべき点も多くあります。しかし、AIは人間の代替ではなく、生活者の意思や価値観を尊重しながら支援する道具であると考えます。

大切なのは、AIをただ受け入れるのではなく、自分の暮らしに合った使い方を見極めることです。技術の仕組みを理解し、主体的に活用することで、AIはより信頼できるパートナーになると思います。

これから社会では、AIと共に暮らすことが当たり前になります。だからこそ、生活者としての視点を持ち、技術とどう向き合うかを考えることが、より豊かな日常への第一歩になると思います。



宮城県生協連の活動

宮城県生協連第56回総会（2025年度）第2回理事会報告

第2回理事会は、9月9日（火）午後1時30分より、フォレスト仙台5階会議室において開催され、理事11人、監事2人、顧問2人が参加しました（内、理事3人がWEB参加）。

冬木勝仁会長理事欠席につき、理事会規程に基づき河野雪子副会長理事が議長に就き、議事をすすめました。

【協議事項】

2025年度宮城県知事懇談会と政党懇談会の各開催計画について、野崎和夫専務理事より提案があり、計画に沿って準備をすすめることを確認しました。

【報告事項】

1. 会員生協の取り組みについて

て、河野雪子副会長理事、高橋千佳理事、田中康治監事、伊藤恵仁理事、高橋正宏理事より報告がありました。

2. 第56回通常総会開催と決算関係書類の附属明細書訂正、2025年度消費生活協同組合等指導検査、宮城県協同組合こんわ会の活動、2025年国際協同組合年宮城県実行委員会、NPO法人消費者市民ネットとうほくの活動、公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワークの活動等について、野崎和夫専務理事から報告がありました。

3. みやぎクリーンアクション、NPO法人介護・福祉サービス

非営利団体ネットワークみやぎの活動について、渡辺淳子常務理事から報告がありました。

4. 灯油関連、第46回生協組合員集会準備報告、平和・憲法9条関連、消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動、消費税STOPネットワークみやぎの活動等について、石川宣子常務理事から報告がありました。

以上の報告について、全員異議無く了承しました。

【文書報告事項】

行政・議会関連、各種委員推薦・後援・各種協賛等について、文書により報告があり全員異議無く了承しました。

冬の生協配達灯油暫定価格決定

生活必需品である灯油価格は、原油相場と為替相場の影響を受けます。宮城県配達灯油の市場価格（税込）は、9月16日現在資源エネルギー庁公表価格によると、18㍑2,321円（1㍑当たり128.9円）です。政府は燃料価格支援策や予防的な激変緩和措置も実施していましたが、7月以降の灯油価格は過去最高

2025年度冬の生協灯油暫定価格

配達期間 2025年9月29日（月）～2026年4月24日（金）

配達地域 県内全域（一部離島などを除く）

価格に迫る高い水準で推移しています。

こうした中、みやぎ生協は安定供給と適正価格をめざし、県民のくらしに少しでも貢献できるよう、県内灯油市場価格より抑えた暫定価格を設定しました。

宮城県生協連は、9月11日（木）に「宮城県生協連灯油対策本部」を設置しました。国民

のくらし、地域経済、事業経営に影響する灯油をはじめとしたエネルギー高・物価高への対応策を国や県、関係機関に求めていきます。また、今冬も灯油情勢が不透明な中で、安定供給と安価な価格実現のために運動をすすめていきます。

2025年度夏の生協灯油決定価格

配達期間

2025年4月28日（月）～
2025年9月26日（金）

| お任せ給油価格（税込） | |
|-------------|--------|
| 1㍑あたり | 126.6円 |
| 1缶・18㍑ | 2,278円 |

| 配達灯油暫定価格 | 1缶18㍑ | 1㍑あたり |
|-----------|------------|------------|
| お任せ価格 | 2,250円（税込） | 125.0円（税込） |
| 個缶（18㍑）価格 | 2,268円（税込） | 126.0円（税込） |

宮城県生協連の活動

「消費者のくらしと権利を守る第46回宮城県生協組合員集会」 ～ここから始まる平和な未来～

9月19日（金）、「消費者のくらしと権利を守る第46回宮城県生協組合員集会～ここから始まる平和な未来～」を、東京エレクトロンホール宮城大ホールを会場に、オンライン併用で開催しました。来場者420人、みやぎ生協の組合員集会室と松島医療生協のサテライト会場および個人宅からの視聴もあわせて約515人の参加がありました。司会は生協あいコープみやぎ理事の石川佳名子さんが務めました。

始めに冬木勝仁会長理事から、「今年は被爆・戦後80年の節目の年であり、国連が定める2回目の国際協同組合年です。平和で持続可能な社会の実現という願いを共有し、消費者のくらしをめぐる問題について、広く市民に伝えるためアピール行進を行います」と主催者挨拶がありました。

ご来賓として、立憲民主党宮城県総支部連合会副代表で参議院議員の石垣のりこ様、日本共産党宮城県委員会・参議院議員のいわぶち友様からご挨拶いただきました。自由民主党宮城県支部連合会会长で衆議院議員の小野寺五典様、公明党宮城県本部代表で衆議院議員の庄子賢一様は公務の関係でご欠席となり、メッセージを紹介しました。

次に、国際協同組合同盟のア



冬木勝仁会長理事の開会挨拶

リエル・グアルコ会長による「第96回国際協同組合デー」に向けたビデオメッセージを紹介しました。

続いてリレーメッセージがあり、『生産者の立場から消費者に知って欲しいこと、考えて欲しいこと』と題して、全国農業協同組合連合会宮城県本部米穀部部長の佐々木利幸さんから生産者の高齢化や後継者不足と米の作付けの減少という農業が直面する危機について、続いて『生きづらさに寄り添うために私たちができること』と題して、特定非営利活動法人ワンファミリー仙台地域福祉課長の佐藤岳彦さんから誰もが予期せぬ事をきっかけに困難な状況に陥る可能性があることや時代に即した対応が必要となることについて、また『社会的課題、略して社的（しゃてき）～今、大学生が社会問題を考え取り組む理由～』と題して、全国大学生協連東北ブロック学生委員の荒井優さんと和島咲良さんから大学生と社会との関わりを深める活動を行っていることについて、報告していただきました。



リレーメッセージ演者（左上から）
佐々木利幸さん、佐藤岳彦さん
荒井優さん、和島咲良さん



コンサート
平澤真悟さんと小平圭亮さん



アピール行進の様子

次に、みやぎ生協理事の辻村優子さんが、会員生協の活動について紹介しました。

尺八演奏者の平澤真悟さんとピアニストの小平圭亮さんによるコンサート『和洋響鳴～巡る音楽、かさなる時～』では、「荒城の月」など全5曲の演奏があり、癒しの時間となりました。

最後に、実行委員長でみやぎ生協理事の菊地由香里さんから、集会決議が提案され、満場の拍手で採択されました。（後掲）

荒井優さんと和島咲良さんの音頭で、参加者とコールを行った後、さわやかな秋晴れの中、仙都会館までアピール行進しました。

＊ 宮城県生協連の活動

東北6県の生協連の代表者が東北経済産業局に灯油に関する要請行動を実施

灯油の本格的な需要期を前にした10月30日（木）、東北6県の生協連の代表が、くらしや地域経済に及ぼす灯油の価格抑制及び安定供給、物価高対策のための施策を消費者の立場から求めるため、東北経済産業局に要請を行いました。

特に、「暫定税率廃止後、灯油価格のみが高騰しないよう、価格抑制のための政策を継続すること」「社会的弱者や経済困窮者に対する支援実施のため、国から各自治体に対する交付金

等の財政措置を講ずること」「灯油難民を生まないために、供給体制維持の実効性のある対策を講じること」等を求めました。

参加者からは、「ガソリンの暫定税率の年内廃止が議論されているが、灯油や軽油といった他の燃料が議論から取り残されないようお願いしたい」「灯油価格は4年連続で2,000円／18ℓを超え、特にエネルギー関係支出の割合が高い東北地方の家計と地域経済に与える影響は甚大であるため、価格安定策の継



秋田県生協連の阿部常務理事（右）より東北経産局の小川課長（左）に要請書を手渡しました。

続と強化をお願いしたい」などの意見が出されました。

東北経済産業局の小川課長から要請項目ごとに回答をいただくとともに、参加者から出された質問・意見に対して意見交換しました。（要請書後掲）

| | | |
|-----|---|----------------------------------|
| 参加者 | 東北経済産業局 資源エネルギー環境部 | 資源・燃料課：小川竜二郎課長、高橋弘之課長補佐、飯沼知典総括係長 |
| 生協連 | 青森県生協連：三浦雅子専務理事、秋田県生協連：阿部一哉常務理事、岩手県生協連：吉田敏恵専務理事、山形県生協連：佐藤大樹専務理事、福島県生協連：佐藤一夫会長、宮城県生協連：野崎和夫専務理事、石川宣子常務理事、佐々木ゆかり事務局長、稻葉勝美事務局次長、みやぎ生協エネルギー事業部みやぎ灯油センター：木村孝副センター長、日本生協連北海道・東北地連：蛭田啓事務局員、山田洋平事務局員 | |

家庭用エネルギー学習会「鶴岡灯油裁判から今を考える」

11月7日（金）、フォレスト仙台第7会議室において家庭用エネルギー学習会を開催し、20人が参加しました。学習会では、生協共立社組織対策部鶴岡地域責任者の土田光恵さんから、『エネルギー高・物価高に消費者はどう向き合うか～「鶴岡灯油裁判」から今を考える～』という演題で講演がされました。

1970年代のオイルショック時、冬の生活を支える灯油が消費者の元に届かない事態が発生しました。共立社の組合員は、少ない灯油を一升瓶で分け合い

何とか暮らしを維持する一方で、石油元売り、県、市に灯油確保を直訴するなどの運動も行われました。のちにこの灯油不足は、石油業界が一体化しておこなったカルテルが原因だったことが判明しました。

厳しい冬の生活から灯油を奪われた共立社の組合員は、二度とカルテルを起こさないように石油元売りを相手とし、自分たちが被った被害の救済を求める訴訟を1974年11月に起こしました。消費者が自らの権利を主張した初めての訴訟は、「蟻が

象に挑む裁判」とも言われ、裁判は結審まで

15年という長い月日を要しました。損害の立証が不十分であるとされ敗訴したものの、消費者が泣き寝入りせず、自ら声を上げ、行動したこの裁判は、消費者運動の原点となり、現在の消費者の権利確立へと続いています。消費者保護を訴えた鶴岡灯油裁判提訴から51年。決して忘れてはならない消費者行動だったことを学んだ学習会でした。



土田光恵さん



みやぎ生協

災害時における防災・減災ネットワーク連携で「防災減災タイム」を開催

みやぎ生協では、地域と生活者への多様な情報を発信しているDate fm Sendaiと、宮城県内における災害対策の更なる深化を目指すために連携協定を結びました。

その皮切りとして、9月4日(木) BRANCH仙台まちづくりスポットにおいて、「防災減災タイム」と題した企画を開催しました。みやぎ生協のローリングストックを紹介する展示、アクアクララの展示と試飲、Date

fm Sendaiのラジオ番組「SUNDAY MORNING WAVE」公開録音、仙台市減災推進課の協力による仙台災害VR体験など、盛りだくさんの内容でした。

公開録音では、みやぎ生協の取り組み紹介のほか、今年COOPトリプルカードみやぎスマイル基金で助成を受けた学生団体「災強のすけっと」や、仙台市減災推進課の取り組みなども紹介されました。

平日夕方の時間帯でしたが、



Date fm Sendaiとみやぎ生協の共催で行われた公開録音の様子

公開録音の見学者含め90人の参加があり、くらしの中でできる防災減災について考える機会となりました。

(生活文化部 伊藤浩子)

第48回全国育樹祭にて「宮城県緑化等功労賞」を受賞！

10月5日（日）に宮城県総合運動公園（グランディ・21）セキスイハイムスーパーアリーナで開催された「第48回全国育樹祭」において、みやぎ生協が『宮城県緑化等功労者【次世代へ繋ぐ「森づくり」部門】』を受賞しました。

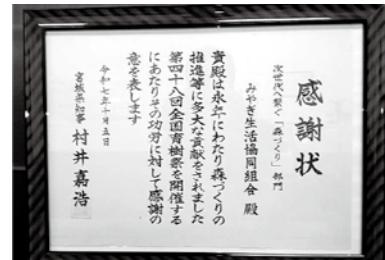
宮城県緑化等功労者表彰は、宮城県初の全国育樹祭の開催を記念して、県内の森林保全・担い手育成・緑化推進・木材利用等で功績が顕著な個人・団体を表彰するものです。

みやぎ生協は、1992年に開催されたリオ・サミット（地球サミット）と、みやぎ生協創立10周年を記念し、宮城の自然と

緑を豊かにする活動資金として「COOP緑の基金」を設立しました。この基金を活用して、森をつくり、育てています。

現在、県内14ヶ所に『こーぶの森』があり、広葉樹や針葉樹を植林しています。森をつくり、育てながら、『こーぶの森』をフィールドにした観察会や体験会を開催し、多く組合員や親子が自然にふれ、森づくりに参加する活動を継続的に行ってています。今回はこれらの取り組みが評価され、受賞の運びとなりました。

これからも『こーぶの森』を通して、森の恵み、水や生き物たちのいのちの循環など、次世



代に繋ぐ取り組みを続けていきます。

(機関運営部次長 中塩晴彦)



みやぎ生協

2025ピースアクションinヒロシマ派遣報告会

9月6日（土）アエル2Fアトリウムにて、「2025ピースアクションinヒロシマ派遣報告会」を開催し、オンライン視聴を含め、100人が参加しました。

「ピースアクションinヒロシマ」派遣は、被爆体験の継承や核兵器のない世界への思いを共有する場として、組合員の皆様からの平和募金を活用し実施しています。被爆・戦後80年となる今年は、親子3組と高校生2人を含む13人を派遣しました。

報告会では、報告者それぞれ

の「ヒロシマ」や「平和」に対する考え方、そして「ピースアクションinヒロシマ」への参加の思いを多くの方と共有しました。また報告者が作成した報告用の模造紙をパネルに掲示し、来場者からの質問や感想などの交流を通じて、平和への思いをさらに深めることができました。

来場者からは、「若い方の受け取りがしっかりされていて感動した」「小5の女の子が一生懸命報告していた姿が印象的だった」などの感想が寄せられ



2025ピースアクション交流の様子

ました。

また、同会場では「子ども平和新聞プロジェクト」の報告や、「『しあわせ』や『へいわ』を感じる絵を描こう♪」の優秀作品表彰式も行われました。

（生活文化部 佐藤妙子）

被爆・戦後80年「子ども平和新聞」製作に取り組みました

今年の6月から、「子ども平和新聞プロジェクト」として活動しました。

被爆・終戦から80年が経過し、戦争体験者からの直接の証言が難しくなる中、次世代を担う子どもたちが、新聞を通じて平和について深く考える機会として実施しました。このプロジェクトにはピースクラブとして小・中学生の5人が参加しました。

河北新報社の記者から新聞作成のノウハウを学び、仙台市戦

災復興記念館を訪れて仙台空襲の歴史や戦争体験者の悲惨な証言に直接触れました。初めての新聞づくりに戸惑いながら、お互いの考えを尊重し、話し合いながら進めました。

子どもたちは、自分たちが伝えたいことを記事にまとめ、9月6日の「ヒロシマ派遣報告会」で、「子ども平和新聞」の完成報告と今回の新聞作成で感じたことを発表しました。

（生活文化部課長 菅野久美子）

完成した「子ども平和新聞」は、みやぎ生協のホームページでも紹介しています。QRコードまたは以下のURLからご覧いただけます。
<https://www.miyagi.coop/members/heiwa/detail.php?p=213>



9月21日（日）付の河北新報「週刊かほビヨンプレス」に、仙台空襲について子どもたちが取材する様子が掲載されました。



会員生協だより

生協あいコープみやぎ

海でプラスチックごみ拾い

9月26日（金）、仙台市荒浜の深沼海岸で清掃活動を続ける団体「深沼ビーチクリーン」様のご協力のもと、深沼海水浴場でプラスチックごみ拾いを行いました。

だいぶ涼しい日が増えていましたが、当日は最高気温29°C。熱中症に気を付けつつも海風を気持ちよく浴びながら、組合員7人が参加しました。

拾うのはゴミ袋に入る大きさの「自然分解しないプラスチック、瓶、缶など」とご説明をいただいて、いざ海岸へ。

毎月ビーチクリーンをされて

いるとの事だったので、それほど汚れていないのではないかと思いましたが、実際には沢山のゴミが…。いわゆる廃棄物的な大きな物はなく一見綺麗な海岸ですが、よく見ると1cm未満ほどのプラスチック片などがあちらこちらにあり、一度かがむと暫く立ち上がれませんでした。（中には砂に埋められた使用済み花火が… 悪質です）

まだまだ拾える物は沢山ありましたが、1時間の作業の後、予定していた震災遺構荒浜小学校へ移動。ガイドさんの貴重なお話を聞きながらの見学とな



ミーティングの様子
「さあ頑張って拾いましょう」



ごみを集める参加者
画像提供：深沼ビーチクリーン

り、とても良い体験となりました。

（石けん環境委員会委員長
庄子左知江）

みやぎ仙南農協

今年は柴田町を会場に青年部がフェスタを開催

JAみやぎ仙南青年部は10月4日（土）、JAみやぎ仙南本店で「あぐりフェスタinしばた」を開催しました。昨年12月に角田市の田園ホールで開催した「フェスタinかくだ」に続き2回目です。

マルシェコーナーでは青年部員が焼き鳥や玉コンニャク、野菜などを販売。ミニ縁日や仙台牛即売会のほか、キッチンカーの出店もあり、朝から多くの来場者で賑わいました。

ステージでは、地元ダンスチームによるヒップホップダンスの披露や吹奏楽団の合奏、またフリースタイルフットボーラーの紺野志虎さんによるパフォーマンスが行われ、大盛り上がりとなりました。スペシャルゲスト「ほやドル」こと萌江さんが登場し、米や仙台牛、管内7地区の特産品などを景品とした豪華抽選会も行いました。

同青年部の村上利行委員長は、「たくさんの来場者に喜ん



抽選会を行う青年部委員長とほやちゃん

でいただけた。時間をかけ準備してきて良かった。反省点も踏まえ、新たな企画で来年も開催出来るよう検討していきたい」と話されました。

（暮らし相談課課長補佐
藤原卓弥）



会員生協だより

松島医療生協

原水爆禁止2025世界大会に参加して

8日4日（月）から広島で開催された「原水爆禁止2025世界大会」に参加してきました。

初日は、袋町公園で木村紗子さん（宮城県原爆被害者の会会長）の被爆証言を聞きました。「この下には、今多くの犠牲者の骨が眠っている」という言葉が深く心に残り、広島滞在中は自分が歩く道にも意識を向けるようになりました。

2日目、私が訪れたいと強く願っていた平和公園内の平和記念資料館を見学しました。原爆の威力や放射線による身体への影響など、実際の資料を通して学ぶことができ、改めて原爆の恐ろしさを実感しました。館内

では多くの写真を撮りましたが、展示ゾーンで唯一、家族や大切な人に宛てた手紙を読んでいるうちに書き手の強い思いが胸に伝わり、胸が苦しくなってどうしてもシャッターを切ること出来ませんでした。

8月6日（水）の平和式典では、関係者以外入場できず、テレビ中継を視聴しながら黙祷しました。

今回の世界大会で特に印象に残ったのは、木村さんの証言、平和記念資料館での体験、そして原爆ドームの姿です。原爆ドームは想像していたよりも小さく、戦後80年の歳月の中で風化が進んでいるようにも感じま



原爆ドーム



原爆死没者慰靈碑

した。それでも、あの場所に立つことで、過去の悲劇と向き合う重みを肌で感じることができました。

この3日間の経験を通じて、平和の尊さと、過去を忘れず語り継ぐことの大切さを改めて実感しました。今後も、学んだことを自分なりの言葉で伝えいけたらと思いました。

（事務局 尾形孝之）

みやぎ県南医療生協

子育て応援の取り組み

みやぎ県南医療生協では、子育て世帯を地域から孤立させないという思いを契機に、2025年7月より「子育てサークル」を開始しました。

0歳から未就園児とその保護者を対象に、育児を行う親同士のつながり作りや、ゆったりと語らう場を提供しています。毎月第3火曜日の午前10時から11時30分まで、近隣の集会所で保

育経験の豊富な地域ボランティアの2人で対応しています。また、助産師資格を持つ看護師、または産科での勤務経験のある看護師を配置し、出産・育児に関する相談もおこなっています。あわせて、医療生協への関心が薄い世代に対して『医療生協を知っていただく場』として活動しています。

より良い活動を目指してス



タッフで検討を行い、開放された場をイメージしやすい「れいんぼー子育てひろば」へ、9月より名称を変更しています。まだまだ来場者が少ないので、地域で広く知られるよう宣伝活動にも力を入れていきます。

（組織部 松浦恵史）



会員生協だより

東北大学生協

リ・リパック工場見学ツアー

9月24日（水）に、「リ・リパック工場見学ツアー」を実施し山形県新庄市を訪問しました。本学教員や学生18人が参加し、環境保全への意識を高めることを目的として実施しました。

最初に訪れたたんぽぽ作業所では、障がいを持つ方々が食品トレイを洗浄・分別し、再利用に繋げる取り組みが行われていました。リ・リパックを含む再

利用可能な資源を無駄にしないと同時に、障がい者福祉を両立させ、環境と社会に優しい事業の形が実現されていました。

その後に訪れたヨコタ東北のアメニティセンターでは、たんぽぽ作業所をはじめとする施設から回収されたトレイから、リ・リパックを製造する工程を見学しました。回収されたトレイがペレットとなり、変形され再生



たんぽぽ作業所での交流の様子

する流れを実際に見学し、地域におけるリサイクルの輪の存在を感じることができました。

リサイクルを通じた地域の繋がりに触れ、リ・リパックの存在意義を再確認できるようなツアーような感覚で実施されました。

(院生委員 近藤 優)

大学生協連東北ブロック

震災伝承と防災を考える会

8月2日（土）・8月3日（日）の2日間にわたりて、大学生協東北ブロックが主体となり「震災伝承と防災を考える会」を実施しました。東日本大震災から14年が経過し、震災の記憶がない大学生が増えています。これから世代に震災の記憶を伝承し、それらを防災の意識につなげていくことを目的として実施しました。参加者は東北地区の大学から40人近く集まり、そのほとんどが大学生でした。

1日目は、震災遺構仙台市立荒浜小学校を訪問し、震災当時太平洋沿岸を襲った津波の恐ろしさや被害の実態、避難時の様子などを知る時間となりまし

た。2日目には、1日目の学びと合わせて、事前に撮影した震災当時荒浜小学校で担任をしていらっしゃった方のインタビュー動画を視聴することで、さらに当時の様子を深く知りました。普段からの備えの重要性を理解したうえで、地元や自分の大学周辺のハザードマップを見て自らの生活に必要な備えや、周囲の大学生にそれらをどう伝えるかについて参加者全員で考えました。

これまで震災遺構を訪れたことのない学生も多く、「被害の実態を間近で見たことで実感がわいた」「津波の威力は自分の想像以上であった」といった声が聞



荒浜小学校訪問時の様子

かれました。また同時に、「日頃から考えて備えていれば被害を減らし、命を救うことができる感じた」という声も聞かれ、参加者が事前防災の重要性を認識する機会となりました。

この企画を始点として、東北ブロックではすべての大学生協で組合員に向けて震災の伝承や防災を推進する取り組みを、次の3.11までに実施することを目指しています。今後も大学生など若い世代に向けた防災の取り組みを強化していきます。

(学生委員 荒井 優)

2025国際協同組合年

2025国際協同組合年記念事業ミュージカル

2025年国際協同組合年(IYC)記念事業の一環として、劇団わらび座による「イーハトーブシアター真昼の星めぐり：the Musical」が、9月28日（日）仙台市の電力ホールにて上演されました。

18歳以下の子どもの無料招待枠もあり、多くの家族連れが来場し、午前と午後の2回の公演で約1,400人の観客が、シーンによって色を変え光るボールを手にしながら劇場が一体となるミュージカルを楽しみました。

普通の高校生活を送る主人公が、現実ではありえない夢の

国・イーハトーブを旅することに。旅路のはてに見つけた本当の幸いとは。さまざまなことを考えさせられるミュージカルでした。

この「イーハトーブシアター真昼の星めぐり」は、宮沢賢治が追い求めた「すべての命が平等につながる理想郷」としてのイーハトーブの世界観が、あらゆる人が隔てなく互いに助け合う協同組合の精神と共に鳴するものとして、日本協同組合連携機構が2025年国際協同組合年(IYC)記念事業として認定しました。



会場入口の公演ポスター



公演終了後の様子

2025国際協同組合年(IYC)宮城県実行委員会は仙台公演に協賛することとし、宮城県生協連は会員生協や協同組合関係者へ優待価格にてご案内しました。

みやぎの環境保全米県民会議

「みやぎの環境保全米新米試食会」参加報告

10月3日（金）ホテルモントレ仙台3階翠鳴館において、新米を味わいながら、宮城県の環境保全米への取り組みの理解と普及拡大を目的に「みやぎの環境保全米新米試食会」が開催されました。

みやぎの環境保全米県民会議委員等70人が出席して行われ、宮城県生協連から渡辺淳子常務理事が参加しました。

はじめに、みやぎの環境保全米県民会議佐野和夫会長（宮城

県農業協同組合中央会代表理事長）より、今年度の作柄と需要状況について報告がありました。

宮城県の環境保全米は、農薬や化学肥料を従来の半分以下に減らし、手間をかけ、丹精込めて育てられた、人や環境にもやさしい安全安心なお米です。今後も環境保全米を宮城米の象徴として位置づけ、「全県推進運動」の取り組みを継続、発展させていくことが確認されました。



新米の試食には、JAみやぎ登米産「ひとめぼれ」、JA古川産「ササニシキ」、JAみやぎ仙南産「つや姫」、JA新みやぎ産「だて正夢」の四種類が振る舞われたほか、県内産の農水産物の惣菜も供され、参加者は各銘柄の新米を食べ比べながら新米の香りと味を堪能していました。



平和のとりくみ

「平和とよりよき生活のために」をスローガンに、核兵器廃絶を訴えるとともに、憲法9条を含めた日本国憲法の良さと大事さを学び、平和を守る活動を広げていきます。

核廃絶ネット

核廃絶Peace Wave inみやぎVol.5

9月22日（月）仙台市青葉区の元鍛冶丁公園を会場に、核兵器廃絶ネットワークみやぎ主催による第5回目の「核廃絶Peace Wave inみやぎ」が開催されました。当日は、天候に恵まれ、30人が参加しました。

最初に、宮城のうたごえの皆さんによる「平和のうたごえ」の合唱があり、被爆80年記念ソング「生きてゆくために」などを参加者全員で歌いました。

開会のあいさつを木村緋紗子代表に代わり、事務局の佐々木

ゆきえさんが行いました。世界中で紛争が続いている現状に触れ、核兵器保有による核抑止を進める日本の現状に危機感を表明しました。

続いて、署名呼びかけ人の佐藤郁子さん（宮城県母親連絡会会长）があいさつし、日本が再び戦争をする国へと向かっていることへの懸念を表明し、平和運動を拡大する必要があると訴えました。

決意表明は、渡部歩さん（民青同盟）が行いました。核兵器



ミニ集会の様子



アピール行進

の悲惨な実態を知っていれば、核兵器保有を主張はできないはずで、若い世代への活動を広げ、次世代へとバトンをつなげていきたいとの決意を話されました。

この後、秋空のもと、15人でピースコールを唱和しながらアピール行進と街宣を行いました。

（常務理事 石川宣子）

みやぎ憲法九条の会

憲法9条を守り生かす宮城のつどい2025

11月2日（日）、東京エレクトロンホール宮城大ホールにおいて、みやぎ憲法九条の会主催、宮城県内九条の会連絡会協賛で開催され、650人以上が参加しました。

第1部では、宮城のうたごえの皆さんによる合唱後、「戦後80年戦争も核もない世界へ」をテーマに、宮城県原爆被害者の会会長木村緋紗子さんから「ノーベル平和賞への歩み」、尚絅学院中学校・高等学校宗教部4人の生徒から「仙台平和七夕の取り組み」が報告がされました。尚

絅学院中・高校では毎年、全校生徒が核廃絶と平和を願い折鶴を捧げています。

第2部では、前広島市長の秋葉忠利さんが『被爆100年までに核廃絶を！～被爆80年の今年を出発点に～』という演題で講演されました。被爆者の行動が「核のタブー」「核抑止力」をつくってきたこと、2045年までの核廃絶のための行動計画など、核兵器廃絶にむけたビジョン・行動を提起されました。

最後に、アピール提案が行われ、満場の拍手で採択されました。



木村緋紗子さん



尚絅学院中学・高校のみなさん



秋葉忠利さん

（事務局長 佐々木ゆかり）

消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動

消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ(略称:消費者懇)【構成団体】宮城県生協連、NPO法人仙台・みやぎ消費者支援ネット、宮城県地域婦人団体連絡協議会、宮城県消費者団体連絡協議会、みやぎ生協、生協あいコープみやぎ、(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)

宮城県の消費者行政担当部局との懇談会を開催

10月15日（水）フォレスト仙台5階会議室において、学習会「宮城県の消費者施策の推進と消費者教育に関する計画を知ろう」を、各構成団体の理事など18人の参加で開催しました。

急速なデジタル化や高齢化など、私たち消費者を取り巻く環境は驚くべき速さで変化している昨今、宮城県の消費者被害の現状を知るとともに、消費者施策の推進に関する基本的な計画である「宮城県消費者施策推進基本計画（第5期）」と、消費者教育に関する分野の個別計画である「宮城県消費者教育推進計画（第3期）」の策定年度にあたることから、宮城県の担当部局担当者を招いて、中間案の説明と意見交換する機会としました。

開会にあたり、河野雪子座長

(みやぎ生協副理事長)が、「学習会の趣旨は消費者政策の基本計画について意見交換することであり、参加者が今感じていることを率直に発言してほしい」と挨拶しました。

その後、宮城県環境生活部消費生活・文化課消費者相談担当課長の長谷川共子さんから、宮城県の消費者被害の現状、現在策定中の2つの計画（中間案）について概要説明がありました。

これに対して参加者から、①消費者からの相談の受け付け方法とその対応について、②消費者行政にかかる予算の配分について、③行政と行政以外の団体との連携・協働の促進について、④消費生活センターの体制について、⑤学校教育と若年層への教育のあり方について、⑥プラスチック削減などの環境問題



【宮城県の参加者】 左から
消費生活・文化課消費者相談担当課長
長谷川共子さん、消費者行政班班長
横谷智江さん、消費者行政班主任主査
菊地彩さん

や食品表示のあり方などについての質問・意見がありました。

宮城県側からは、「相談は主に電話と対面での相談対応が基本で、デジタル化は今後の課題、消費生活センターは地域包括支援センターにご協力いただいている」との回答がありました。

参加者にとっては、直接宮城県担当者と情報交流ができた有意義な時間となりました。

宮城県「食の安全安心の確保に関する基本的な計画（第5期）」（案）へ意見を提出

宮城県では、みやぎ食の安全安心基本条例に基づき、平成18年に「食の安全安心に関する基本的な計画」が策定され、5年ごとに計画を見直しています。令和8年度～13年度までの第5期計画の策定年度にあたり、

9月19日（金）～10月17日（金）までの期間、「第5期計画（中間案）」に対し、県民から意見・提案を募集しました。

消費者の立場にたった食品の安全安心確保の取り組みへの意見を届ける貴重な機会であるこ

とから、消費者懇と宮城県生協連は、10月17日（金）、宮城県環境生活部食と暮らしの安全推進課企画調整班あてに意見書を提出しました。（後掲）

（事務局長 石川宣子）

NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動

介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ(略称:介護・福祉ネットみやぎ)は、良質な介護・福祉サービスの提供と健全な事業運営のため活動しているネットワーク組織です。会員数:正会員団体17、個人正会員18、団体賛助会員3、個人賛助会員67(2025年6月現在)

2025年度第3回実務担当者会議・拡大研修会

『高齢者虐待防止法の理解と対応の視点』

～なぜ、虐待防止に取り組んでいますか？

介護・福祉ネットみやぎは、良質な介護・福祉サービスの提供と、健全な事業運営の実現を目指すネットワーク組織です。ネットワークの運営や活動を検討する目的で、団体会員による実務担当者研修会を定期的に開催しています。

今年度3回目となる研修会は、9月26日(金)フォレスト仙台5階会議室において、アクアビットファクトリー株式会社 経営マネジメント責任者の水澤里志さんを講師に迎え、実務担当者、介護従事者、調査員等オンライン視聴含め46人が参加しました。

令和6年から介護現場において虐待防止への取り組みが強化され、研修の実施などが義務付けられたことを背景に、講演では高齢者虐待の原因、高齢者虐待防止法の概要、虐待の捉え方、具体的な対策についてご講演いただきました。

はじめに、高齢者虐待の現状と背景について解説がありました。「介護施設における虐待の最も多い要因は、職員の権利擁護、身体拘束に関する知識・意識の低さが全体の7割以上を占

め、その他、倫理観や理念の欠如、性格・資質の問題、知識・技術の不足も主な要因として挙げられる。介護現場では、人手不足や低賃金、利用者からの暴言・暴力(カスハラ)など、多くの職員が精神的・肉体的なストレスに直面している。その結果、『介護現場の過酷な現状を考えれば仕方ない』という虐待を『必要悪』と捉える風潮がある。利用者に対する不適切な対応(例:「パンパン」と手を叩く)は、職員の焦りやイライラから無意識に行われる可能性があり、これは『スピーチロック』や『スイーツロック』といった虐待につながる危険性がある行為である。したがって虐待は個人の問題だけでなく、環境や組織全体の歪みが引き起こす場合もある」と指摘されました。

「虐待防止の具体的なアプローチとしては、職員の倫理観やコンプライアンスを徹底し、健全な組織運営とチームアプローチを通じて、質の高いケアを提供できる体制を構築すること。虐待の背景にある職員のストレスや負の感情(怒り、不安、悔しさなど)を軽減し、それら



講師の水澤里志さん

の感情を否定せず、チームで共有し、向き合うことが重要である。虐待防止の鍵は『対話』にある。対話とは、相手を評価・批判せず、相手の話に耳を傾けることで、特に、管理職は『9割聞き役』に徹し、『あなたはそう考えているのですね』と受容する姿勢が大切である」と組織としての役割についても言及されました。

最後に、「高齢者虐待の防止は、利用者本位のケアと職員本位の職場環境改善という2つの視点を統合することで実現する。単なる法令遵守や運営指導対策としてではなく、より良いケアを提供するために行うべき本質的な取り組みであり、日々の業務における不適切な対応の予兆を察知し、対話を通じてチーム全体で職場環境を改善していくことが、虐待のない職場づくりにつながる」と強調されました。

(事務局長 渡辺淳子)

適格消費者団体 認定NPO法人 消費者市民ネットとうほくの活動

消費者市民ネットとうほく(略称:ネットとうほく)は、消費者被害の未然・拡大防止及び救済のため、消費者や消費者団体・関係諸機関・消費者問題専門家等と連携し、消費者被害の調査・研究・情報収集、是正申入れ等の活動を行っている内閣総理大臣認定の適格消費者団体です。

講演会「トイレ・水回りのトラブル等につけこむぼったくり レスキュー商法の被害の実態とトラブル予防・対処法」 ～悪質訪問販売のワナから身を守る！～

10月18日（土）仙台弁護士会館4階ホールにおいて、消費者被害防止ネットワーク東海の理事で弁護士の伊藤陽児さんを講師に迎えて講演会を開催し、弁護士、消費生活相談員、学識者、一般消費者など、オンラインを含む53人が参加しました。

愛知県内でのレスキュー商法による被害増加を受け、令和2年8月に愛知県弁護士会の有志で『悪質！「トイレのつまり」ぼったくり被害対策弁護団』が結成されました。伊藤さんは事務局として現在も相談を受けており、受付件数約225件のうち約200件は弁護団結成から約1年間に集中しているとのことです。

「水回り・トイレのつまりなどのレスキューサービスは、以前は冷蔵庫などに貼るマグネット

ト広告だったが、最近はインターネット広告に変わってきている。それ以外にも今は、鍵や害虫駆除などの被害報告が続いている。弁護団は全国各地に作られており、提携業者・サイト運営者に対しての訴訟で共同不法行為*を認める判決も獲得している。被害防止のための取り組みとして、内閣府消費者委員会での報告・提案、Googleに対する申入れ、マスコミとの連携等を行なっている」と報告がありました。また、被害事例の紹介や手口の流れ、問題点、被害回復のための法律等の活用、被害に遭わぬための対策をふまえお話をいただきました。

その後、ネットとうほく理事の小野寺友宏弁護士から、「仙台市内でもレスキューサービス



伊藤陽児弁護士

被害の情報提供も多く寄せられている。有志による弁護団を立ち上げ、全国弁護団にも参加している。ネットとうほくとしても今後何らかの対応を検討し進めていく」と報告がありました。

意見交換では、「仙台に弁護団が出来たことは心強い」「最近は業者が業態を水回りやトイレのつまりから、エアコンに変えたようだ」「岩手県では蜂の駆除業者のトラブルも報告されている」「広告業者の責任を一定は認めるべき」等の意見がありました。

*共同不法行為とは、複数の加害者が同時に共同して被害者側に対して損害を与えること。この場合、複数の加害者は連帯して被害者に賠償しなければならない。

2025年度「第3回ネットとうほく消費者被害事例ラボ」 ～欧州の個人情報保護法制（GDPR）からみる消費者法制の問題点～

9月11日（木）「第3回消費者被害事例ラボ」が開催され、オンラインを含む16人が参加しました。

今回は、「欧州の個人情報保

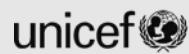
護法制（GDPR）からみる消費者法制の問題点」をテーマに、山形大学人文社会科学部森勇斗講師が解説しました。

（事務局 金野倫子）



山形大学講師 森 勇斗さん

宮城県ユニセフ協会の活動



ユニセフ(UNICEF :国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。宮城県ユニセフ協会は「協力協定」を締結し、県を代表するユニセフ活動の拠点として、ユニセフの広報・募金活動を実施しています。会員数：一般142 団体7(2024年12月)

ユニセフ映画「世界のはしづこ、ちいさな教室」上映会

9月27日（土）せんだいメディアテークにて、映画『世界のはしづこ、ちいさな教室』を上映し、72人が参加しました。

この映画は、シベリア、ブルキナファソ、バングラデシュを舞台に、「子どもたちに広い世界を知ってほしい」「子どもたちには明るい未来がある」と情熱をもって信じる道を歩き続ける3人の先生の奮闘と、子どもたちが学びに目覚めていく姿を描いたドキュメンタリーです。

参加者からは、「教育を世界

にまんべんなく届けるのは難しいと実感する映画だった」「ほかの国では『勉強をしたい』と思う子どもたちもたくさんいるけれど、親に勝手に結婚をさせられてかわいそうだと思った」「日本に教育の場があることを当たり前のように思っていましたが、恵まれていることを改めて実感しました」「知識は、自由と自立を両立させができる」などの感想がありました。

11,419円の募金が寄せられました。



映画のポスター

ユニセフブックカフェ

10月15日（水）みやぎ生協文化会館ウィズを会場に、どなたでも気軽に立ち寄れる「ユニセフブックカフェ」を開催しました。

宮城県ユニセフ協会が所有している平和に関する書籍や絵本、パネルの展示、DVDの視聴、支

援物資、ネパールの水がめや蚊帳、地雷の展示をしました。

参加者からは、「こういう機会があつて良かった」「地雷模型を初めて見た。使用しない世界を望みます」などの感想をいただきました。

(事務局 八島真美)



ブックカフェ会場の様子

第47回ユニセフハンド・イン・ハンド（街頭募金活動）のお知らせ

日時：2025年12月13日（土）11:00～12:00

場所：仙台駅西口2階出入口の2ヵ所（ペデストリアンデッキ）

今年のテーマは「すべての子どもに生きる希望を！」です。

当日は、ボランティアやガールスカウトのみなさんと募金活動を行います。
募金へのご協力をよろしくお願ひいたします。



昨年の様子

宮城県ユニセフ協会

〒981-3194仙台市泉区八乙女4-2-2 みやぎ生協文化会館ウィズ内

TEL 022-218-5358 FAX 022-218-5945

Eメール sn.unicef_miyagi@todock.coop URL <https://www.unicef-miyagi.gr.jp/>



みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) は、緑と水と食をとおして暮らしを考え、地球と地球環境の保全に寄与するために、多くの市民、知識人、協同組合、企業、団体で作られた環境NGOです。会員数：個人347、法人52、任意団体8 (2025年9月)

「MELONフェスタ2025 まるごと“MELON”なくらし」を開催しました！

年に一度、MELON役職員・会員と市民が集うお祭り「MELONフェスタ」。今年はJR仙台駅東口のイーストゲートビル1Fダテリウムで、9月20日(土)に開催しました。コンセプトは昨年に引き続き、「衣・食・住」の3つのテーマごとにブース出展し、サステナブルな暮らしを提案するイベントとしました。

当日はあいにくの曇天でしたが、何とか雨も降らず400人ほどの来場者でぎわいました。

制服の残布を使ったくるみボタンやアクセサリー作り、へちまたわしを作るワークショップ、環境保全米のPRブースやエシカルなお買い物の提案ブー

ス、食品ロスや海洋ごみに関する展示、気候変動・環境問題を学ぶジンガゲーム、釣りゲームなどMELONを支える会員企業や各協同組合、つながりのある団体や大学生、宮城県、仙台市がブース出展し、連携して楽しく環境について考える機会を提供しました！

また会場では、プレゼントが当たるシールラリーや、アンケートに答えてくじ引きに参加すると賞品があたる「デコ活アクション」など、お楽しみ企画も用意し、多くの方々にご参加いただきました！

今年の会場、ダテリウムは交通の便も良く通りがかりの人も多い場所で、過去に開催した

ホールなどと比べると若干狭いものの、多くの方にMELONを知っていただく良い機会になったと思います。

気候変動危機は切迫した状況にあり、実効性のある対策が急務ですが、並行して来場者が楽しく環境について学び、一人でも多くの人が環境問題を考えるきっかけづくりとして、こうしたイベントも引き続き重要と考えています。今後も有意義な場の提供を考えていきたいと思いますので、みなさまのご参加・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(事務局長 小林幸司)

MELONフェスタ2025 まるごと“MELON”なくらし



くるみボタン作り



開放的な会場の様子



気候変動ジンガゲーム

主 催：公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)
共 催：みやぎ生活協同組合、宮城県農業協同組合中央会、宮城県漁業協同組合、宮城県森林組合連合会
協 力：株式会社ジェイアール東日本企画
後 援：宮城県、仙台市、河北新報社、khb東日本放送、仙台放送、tbc東北放送、ミヤギテレビ
出展ブース：9団体（ワークショップや展示など）

行事予定

主催 東北労働金庫

「東北ろうきんフォーラム2025」

共生社会の実現に向けた新たな連携のカタチ～誰もが安心して働き・暮らせる東北をめざして～

- 日 時 2025年12月4日(木) 14:00 ~ 16:30
- 会 場 TKPガーデンシティ PREMIUM仙台西口7階
- 基調提案
『助け合いのネットワークで築く共生社会』
全国労働金庫協会政策調査部 事業創造ディレクター 山口郁子さん
- 助成団体活動報告
特定非営利活動法人 学びの庭 理事長 鈴木福壽さん
一般社団法人 CARNIVAL WORKS 代表理事 江藤大裕さん
- パネルディスカッション
『共生社会の実現に向けた新たな連携のカタチ』
ファシリテーター 山口郁子さん
パネラー
宮城労働者福祉協議会 会長 大黒雅弘さん
宮城県協生活協同組合連合会 専務理事 野崎和夫さん
特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
常務理事 青木 ユカリさん



山口郁子さん

参加費無料 締切り 11/28 (金)
会場：50人・Zoom：500人

[お問合せ]
東北労働金庫営業統括部
担当：佐藤
TEL：022-723-1118
mail:suishin@tohoku-rokin.or.jp

主催 みんなで考えよう介護保険！みやぎ県民フォーラム2025実行委員会

「みやぎ県民フォーラム2025」

- 日 時 2025年12月13日(土) 13:30 ~ 16:30
- 会 場 フォレスト仙台2階 第2フォレストホール

【第1部】学習講演

「なぜケア労働の賃金はあがらないのか？」
～介護保険制度が抱える構造的問題から～
講師：実践女子大学教授 山根 純佳さん

【第2部】リレートーク

当事者・当事者を支える立場からの発言

※参加費無料！どなたでも参加できます。
※締切り：12月10日（水）まで



講師プロフィール
山根 純佳さん
実践女子大学人間社会学部教授

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。山形大学准教授、実践女子大学准教授等を経て2021年より現職。研究分野はジェンダーと再生産/ケア労働。著書に『産む産まないは女の権利か』『なぜ女性はケア労働をするのか—性別分業の再生産を超えて』『ケアするわたしの〈しんどい〉はどこからくるのか』(共著)



[お申込み方法]
QRコードよりお申込みください。
QRコードが読み取れない場合のURL
<https://forms.gle/o8d5Rngp9DVvzLAE9>

主催 核兵器廃絶ネットワークみやぎ

「核兵器禁止条約発効5周年記念・核廃絶ネット発足5周年記念イベント」

●日 時 2026年1月22日(木) 13:30 ~ 16:00

●会場 戦災復興記念館 2階記念ホール

●講演会

講師：弁護士 大久保 賢一さん

(日本弁護士連合会核兵器廃絶部会部会長、日本反核法律家協会会長、核兵器廃絶日本NGO連絡会共同代表)



講師 太久保賢一さん

● 演奏会

塚野淳一さん…チェロ

(所属／杜の弦楽四重奏団・仙台チェンバー・アンサンブル)

叶 千春さん…ヴァイオリン

(所属／仙台チェンバー・アンサンブル)



塚野淳一さん

叶 千春さん

無料！どなたでも参加できます。

直接会場にお越しください。

[お問合せ] 核兵器廃絶ネットワークみやぎ
(略称:核廃絶ネット)
TEL: 090-7326-5885

主催 消費税STOPネットワークみやぎ

第24回学習会 「消費税は社会保障に使われる？～社会保障と国民の負担を考える～」

●日 時 2026年1月30日(金) 13:30 ~ 15:00

●会場 フォレスト仙台2階 第2フォレストホール

●講 師 尚絅学院大学名誉教授 岩倉政城さん

●幕 集 来場(80人)またはオンライン(100人)



講師プロフィール

岩倉 政城さん



参加費無料！どなたでも参加できます。
QR コードまたは下記 URL よりお申込み
ください。
<https://forms.gle/SCXkP3h7P7bPH4i6A>

[お問合せ] 消費税 STOP ネットワークみやぎ
TEL : 022-276-5162

歯学博士。東京歯科大学卒、東京医科歯科大学大学院（生化学）修了。東北大学助教授を経て、尚絅学院大学子ども学科教授、同附属幼稚園園長、新医協（新日本医師協会）会長。現在、尚絅学院大学名誉教授、新医協顧問、宮城県社会保障推進協議会会长。

■会員生協

みやぎ生活協同組合
生活協同組合あいコーポみやぎ
松島医療生活協同組合
みやぎ県南医療生活協同組合
東北大大学生活協同組合
東北学院大学生活協同組合
宮城教育大学生活協同組合
宮城大学生活協同組合
東北工業大学生活協同組合
尚絅学院大学生活協同組合
宮城学院生活協同組合
大学生活協同組合
みやぎインターナレッジコーポ
生活協同組合連合会大学生協事業連合
(東北地区)
みやぎ仙南農業協同組合
宮城労働者共済生活協同組合
宮城県高齢者生活協同組合

発行

宮城県生活協同組合連合会
会長理事 冬木 勝仁

〒981-0933
宮城県仙台市青葉区柏木 1-2-45
フォレスト仙台 5 F
TEL 022-276-5162 FAX 022-276-5160
ホームページ <https://kenren.miyagi.coop/>
業務時間： 土・日・祝祭日を除く月曜日～金曜日
午前 9 時 30 分～午後 5 時まで